

試行錯誤と創意工夫のある「つくる学び」をつくる

～各教科における見方・考え方を生かした創造的思考力を伸ばす授業のデザイン～

2022年7月12日 音楽科

3年蘭組「リズムとは何か～リズム創作活動を通してリズムを知ろう～」

3年音楽科 学習指導案 授業者 中山由美

1 単元の概要

題材名 リズムとは何か～リズム創作活動を通してリズムを知ろう～

	目標	評価規準	評価資料
知識 技能	速度、拍子、音符と休符、タイ、強弱、テクスチャ、構成の知識をつかってリズム音楽を創作し、リズムアンサンブルをつくり、リズムを感じ取る。	音符、休符等のリズム譜の読譜やリズム譜を書く力を身につけ、自在にリズム表現を工夫できる基礎的な知識と技能を身につけているか。	テスト
思考 判断 表現	基にするリズムパターンのつなげ方、変化のさせ方を工夫して自分のリズム音楽をつくり、他と共有し、音色を工夫したり、速度の変化を工夫したりしてアンサンブルをつくる。	考えながら、つなげたり、変化させたり、重ねたり、速度や強弱を変化させたり、音色の組み合わせを工夫したりしているか。	振り返り
主体的に 学習に取り 組む態度	自分の考えに基づいてリズムパターンを選んだりつくったりして4小節のリズムをつくらうとし、手拍子や楽器選択をして他の音を聴き、試しながら、リズムを体感しようとする。	既成の作品を参考に、また、自力でオリジナルのリズムパターンを楽しみながらつくらうとしているか。リズムアンサンブルの創作活動でアイデアを考えたり、発言したりしているか。	毎時間のふりかえり

2 単元の展開

単元の流れ（全8時間）

1	「打楽器のための小品」（黒澤吉徳作曲）を用いて、リズム音楽のアナリゼをする。
2	
3 4	各自のリズムパターンを創作し、グループで共有してリズムアンサンブルをつくる。 リズムとは何か、感じ取る。

本時（3 / 4時）の流れ

本時の目標

グループでリズムアンサンブルを創作しよう。

1. 「打楽器のための小品」を演奏する。→
リズムアンサンブル作品の参考（5分）
2. 各自の1小節のリズムパターンを創作する。（10分）
3. グループで各自のリズムパターンを持ち寄り、リズムアンサンブルを創作する。（25分）
4. 中間発表を聴き合う。（5分）
5. 授業のふりかえりを書く。（5分）

既成のリズム作品を分析する。~どのようにできているか。



打楽器のための小品

くろさわよしのり
黒澤吉徳 作曲

●音色を考え、
し、音の重なり、
て生まれる。

♩ = 144 ~ 152

ア

イ

① $\frac{4}{4}$ *mf*

② $\frac{4}{4}$ *mf*

③ $\frac{4}{4}$ *mf*

④ $\frac{4}{4}$ *mf*

⑤ $\frac{4}{4}$ *mf*

⑥ $\frac{4}{4}$ *mf*

どのパートも1、または2、または3パターンのリズムできている。

パターン→1小節分を指す。

どのパターンも目新しいわけではない。何がオリジナルなのか。並べ方、積み上げ方に創意工夫あり

音楽科研究授業での、創造的活動×創造的思考×教科の見方・考え方

①創造的活動

自身にとって初めての発見、つくってみるという能動的な活動によって、ながめていた「リズム」に寄り添う活動

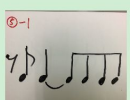
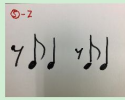
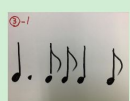
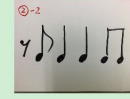
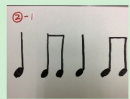
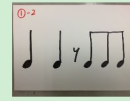
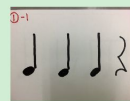
②創造的思考

全く新しい物をつくろうとすることに限らない。既成の作品からヒントをいただきながら発想を広げてつくっていかうとする思考

③創作活動による見方・考え方

つくってみることでわかること、感じ取れることを確認しようとする。

打楽器のための小品を分析すると



「打楽器のための小品」アの部分に出てくるリズムをカードにしました

アの部分は、この10枚のリズムカードで構成されています。

つまり、作曲者のオリジナルはリズムそのものではなく、つなげ方、重ね方である

リズムとは何か感じる言葉で表現しなくてよい

リズム創作の2つの方法

1 イメージしたリズムを打ちながら、その場でつくっていく即興的表現。即興なので、二度と同じ表現はできないおもしろさを味わう。

2 リズムを考え固め、再現可能な創作を楽しむ。

・本題材では、2の方法を選んだ。

既成の楽曲から音楽のつくりを知り、それを参考につくってみる、というアプローチを考えた。楽譜でつくっていく方法。

リズムアンサンブルをつくるアイデアの例

- ・<前提>自分が打てるリズムパターンをつくる。
- ・グループでもちよったリズムパターンを共有する。
- ・もちよったリズムパターンをつなげて演奏してみる。
- ・ずらして演奏してみる。
- ・同時に演奏してみる。
- ・音色の組み合わせを工夫してみる。
- ・強弱の変化、速さを決める。

授業者の活動設定における試行錯誤の場面 ～リズム譜を書くことが難しいという実態



4種類の音符と休符を指定したにもかかわらず、リズム譜を書くことに苦労している

書き慣れていない
リズムを書くという場面が設定しにくい。

拍子、音符、休符を学習するのは小学校2年生

リズムをリズム譜以外で記録する手段は??

- ・ターターティティター といった「シラブル(口唱歌くちしょうが)
- ・録音、口伝

イメージしたリズムを書き表す方法に試行錯誤している。

本時は、記譜から創作へうつることを考えていた。

つくる活動に記譜のストレスが加わった。

楽しくリズムアンサンブルをつくる、ではなく、既成の楽曲のつくりを参考に、理論で構築する道を選んだ。

グループ活動における試行錯誤・創意工夫

授業者のイメージは

「すぐに話し合いながらつくっていきだろろう」

上記のような活動をしているグループがある反面、一方で

慣れている生徒がメンバーのリズムパターンを集めてつくり、他のメンバーは全幅の信頼をもってそれを待っている。できあがった台本をもとにリズムアンサンブルをしようとしているグループがある。

もくもくとひとりひとりが共有したリズムパターンを見ながらあれこれと考えている。話し合う前の段階なのか？

音楽科における試行錯誤と創意工夫のある「つくる学び」

活動は決して美しくまとまったものではない。

生徒個々に試行錯誤の原因、解決方法等は異なる。

創意工夫は、グループの中で触発し合いながら生まれる。経験、知識、技能、嗜好などの個人異が集まったグループ、ふだんの人間関係がどうであるかは考慮せずに、機械的に割り振り編成したグループは、蓋をあけてみないとどのような活動となるか予想が付かない。→どのような構成メンバーであってうまく活動できるようになるためにトレーニングする場

グループ活動の様子を観察して、どのようにつくろうとしているのか、つまずきはどこか、円滑に進んでいる場合は何が原因なのかななどを考察して「つくる学び」の可能性を授業者はイメージしていくことにする。